

業 種／金融業・保険業

主な事業内容／リース事業、不動産・環境エネルギー事業、

ファイナンス・投資事業、海外・航空機事業

従 業 員 数／連結：1,864名(単体：784名)

リモートで実施できるよう Web コンテンツを作成し、確認テストも用意

コロナ禍のため集合訓練が困難になったことから、Web コンテンツを用意し、在宅勤務でも学習できる体制を整えた。コンテンツには東京都作成の動画を活用し、セルフチェックができるように確認テストを実施した。

また、安否確認訓練では、実効性を高めるべく未返信者に対する原因調査の上、所要の対策を講じた結果、返信率はほぼ100%に達している。

更に、「災害等緊急事態発生時の行動要項」等について、個人のモバイル端末へのダウンロード保存を推奨し、勤務時間外の発災にも備えている。

Q7: 自宅で地震が発生。次のうち絶対に避けるべき行動はどれ? * 1ポイント

○ 台所のコンロの火を急いで消す

○ 机の下に潜る

○ 玄関に移動し、ドアを開ける

Q5: 災害時に使える「災害用伝言ダイヤル」で、1度で行える伝言は何 * 1ポイント
秒以内?

○ 15秒

○ 30秒

○ 60秒

在宅勤務を想定したWebコンテンツでの確認テスト

災害等緊急事態発生時の行動要項 (社員等)

社内		社外
<p>地震</p> <p>＜震動時＞ 落下物及びガラスの飛散等から先ず身を守る。机の下にもぐる。エレベーターは絶対に自動停止。→停止後、速やかに降り、身の安全を図る。(閉じ込められた場合は、閉じこもりを待たず)</p> <p>＜揺れが小さくなったとき＞ 手早くエレベーターも退出。外出時発生時は、火災発生時と同様に行動。</p> <p>＜状況が落ち着いたとき＞ 安全が確認できない。災害発生時が災害発生時の指示に従い、行動は指示された安全確保に努める。</p> <p>＜安否確認＞ 災害発生時が災害発生時へ各自の安否を速やかに連絡。安否の安否を確認。発生した場合は即座に報告し、状況が落ち着いた場合は速やかに報告。大規模発生時は、一斉報告による混乱や危険を回避する。また、都心部では基本家にビル内に留まる。一斉報告が可能な状態。後も、状況に応じて報告を繰り返す。途中、危険を感じた場合は、即座に報告し、指示に従う等の対応を実施。対応が完了した場合は速やかに報告。報告が完了した場合は速やかに報告。報告が完了した場合は速やかに報告。</p>	<p>火災</p> <p>＜発見時＞ 火災を発見した場合、大声で周囲に知らせ、屋内消火栓の取扱説明書を確認する。消火器の使用は、火災発生時と同様に行動。</p> <p>＜避難時＞ 避難経路を確認し、エレベーターは絶対に自動停止。→停止後、速やかに降り、身の安全を図る。(閉じ込められた場合は、閉じこもりを待たず)</p> <p>＜状況が落ち着いたとき＞ 安全が確認できない。災害発生時が災害発生時の指示に従い、行動は指示された安全確保に努める。</p>	<p>地震・外出中の場合</p> <p>1. 通勤・外出中の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の安全を確保 エレベーター、近隣の一時滞在施設、避難所等への避難も 安全と判断される場合は、自身の安全確保とともに、災害発生時の指示に従う <p>2. 通勤・外出中の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の安全を確保 エレベーター、近隣の一時滞在施設、避難所等への避難も 安全と判断される場合は、自身の安全確保とともに、災害発生時の指示に従う

緊急連絡フロー図

災害等緊急事態発生時の行動要項